

作品研究) 『Passion of Darkness』 —学苑祭における教員の作品展示 2025—

(『Passion of Darkness』 Gakuen Festival Teacher Works Exhibition 2025)

石川 文子

抄 録

2025年11月1日に開催された本学の学苑祭<山短祭 2025>(テーマ「アップデートしよっ!」)の作品展示ブースで頭部ウィッグを用いたウィッグ作品を展示した。その展示作品について、テーマや制作過程を紹介する。

キーワード: 山野美容芸術短期大学 ヘアスタイル 1920年代 ウィッグ作品

I. はじめに

2025年11月に開催された<山短祭 2025>では学苑祭テーマである「アップデートしよっ!」のもと模擬店ブースや歌、バンドやダンス、学生ヘアショーなどのイベントを通して学生たちが協働し、山短らしさを表現することを目的に開催された。その中の1つのコンテンツとして、作品展示ブースを設けた。各種コンテストに参加した学生や有志の教員が、各々の作品を展示し、来場者に身近に美容や芸術の作品をご覧いただく機会となっている。

頭部ウィッグを用いた作品制作は、本学の美容実習授業の中でも行われており、人体モデルでは難しい表現ができたり、立体物として360度鑑賞ができるという利点がある。また、店舗のディスプレイと同様に長期にわたる展示をする際には、美容という人を対象とした作品であっても頭部ウィッグを使用することで、長期間の展示が可能となる。

制作にあたり、まず展示の方法を検討した。展示会場の天井照明を消して、スポットライトの照明のみで展示することとし、暗い雰囲気合うウィッグ作品を制作することとした。

II. 作品紹介

展示方法が決定した後、照明の当たり方によって色味が変化する偏光生地を用いることを決めた。また同時に、作品イメージを「ビンテージ感のある情熱を持った女性」として、1920年代のヘアスタイルの流行と魅惑的なメイク、異素材を組み合わせた衣装を想像させる装飾にすることとした。

「ヘアカット」は7:3に分けたイヤーツーイヤールインからフロント側のハチ上の毛髪と、ネープ10cm位を除いて、リップラインの前下がりボブとした。7:3に分けたイヤーツーイヤールインからフロント側のハチ上の毛髪は、リップラインのボブより長さを残した。ネープ10cm位の毛髪は、左にポイントとして長さを残し、右に向かってやや短くなるようにカットした。

「ヘアカラー」はブラウンの毛髪の頭部ウィッグを用いて、1度ブリーチを行い、ブラウンの色素が薄くなるようにしてから、ネープ10cm位と左サイドのハチより下の部分を除いて、トリートメントカラーのバイオレットを少し混ぜてやや深みを出したレッドで染めた。色彩イメージで「情熱的」「自信」を表すレッドは今回の作品では主要なカラーである。左サイドのハチより下はバイオレットを入れ、ネープ10cm位はレッドとアルカリカラー剤のブルーでストライプ状に交互に色を入れた。

「ヘアセット」は、ネープ10cm位はレッドとブルーに染めた部分を、針金にツイストスパイラルに巻き付け、重力に逆らった細かいスパイラルカールを出して、浮遊感を出した。前下がりボブに切った部分は、つやのある面を出しながら外はねになるようにブローし、強さとかびれによる女性らしさのバランスを図った。フロント部分にあたるハチ上の前髪を含めた毛髪を利用して、トップから左サイドにかけて流れるような立ち上がり、中間から毛先に向けたカールを用いて、魅惑的な雰囲気となるようにセットした。パートラインには、深いブルーで染めた毛髪を利用したパーツをトークハットのイメージにして、上品さと華やかさをプラスするヘアアクセサリーの一部として使用した。

「メイク」は、肌は上気したようなややピンク味のあるつややかな肌色にし、赤いアイシャドウと深みの

ある赤のリップで、情熱を表現した。誘惑しすぎない流し目となるように、アイラインとまつ毛をしっかり描き、使用した赤とのバランスを考えて、魅惑的なメイクとなるように仕上げた。また、首には何かに浸蝕されるような黒とゴールドのアートメイクを施し、見る方向によってミステリアスさも演出した。

「衣装を想像させる装飾」は、胸元に深みのある赤色のフェイクレザー生地で、斜めにタックを取るようなデザインを付け、同じ生地を用いた花の装飾を右胸元に配した。次に、照明によってビンテージブルーから、ビンテージレッドに偏光するオーガンザ生地で、不規則なフリルのようなシャーリングを作り、左の脇あたりから肩にかけてと、胸元のデザインにかかるように配置した。生地の色味によるビンテージ感と、強い印象を受けるフェイクレザー生地と柔らかい印象のオーガンザ生地を使用することで、芯のある情熱を表した。

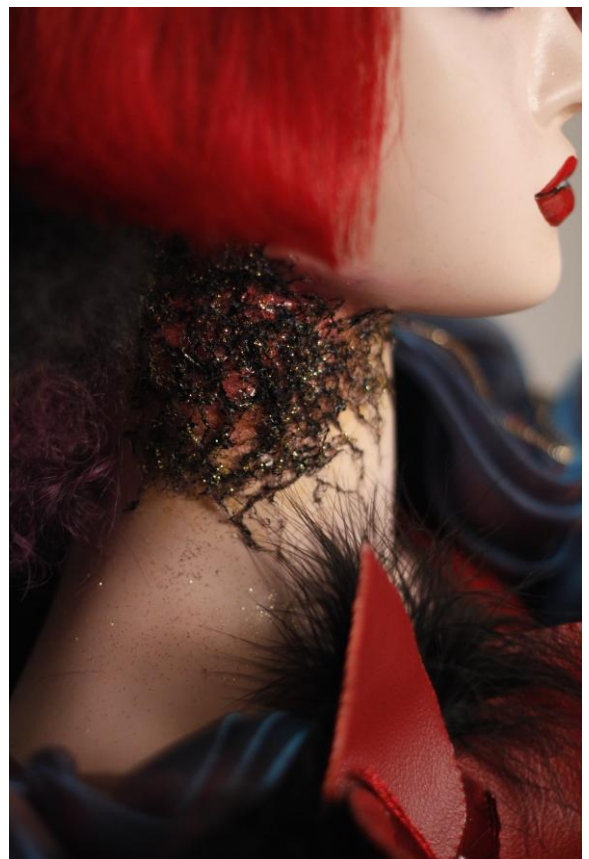
本作品を考えていく中で、昨年度の学苑祭で展示した「Fusion」とは違った文化に注目した。「Fusion」は、日本と西洋の文化の融合をイメージし、作成したが、今回の「Passion of Darkness」は年代による文化の違いに注目し、1900年～1920年代の特徴を基に作品制作をした。伝統的なアール・ヌーボーの曲線美と、対照的で革新的なアール・デコ様式の特徴の異素材の組み合わせや、フラップスタイルを混ぜ合わせることで、変化の大きい中で女性の生きる意志を表した。今後も、作品制作を通して様々な文化と美容を考え、表現できるように進んでいきたい。

謝辞

写真撮影にご協力いただきました本学教員阿部高広様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 石川文子 「『Fusion』
学苑祭における教員の作品展示 2024
ーBeauty style ～ファッションテイストと美容～」
山野研究紀要 Vol.32 pp41-44.2024
- 2) 山野美容芸術短期大学
<https://www.yamano.ac.jp/> (2025.12.7)





『Passion of Darkness』

山野美容芸術短期大学 学苑祭

2025 年 11 月 1 日

作品展示ブース 展示作品

(撮影：写真室)